

---

# 日常

SR Forever

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日常

### 【Nコード】

N0091U

### 【作者名】

S R F o r e v e r

### 【あらすじ】

シャリファのお父さんは、1年前から日本に留学している。その1年後、お母さんと弟と一緒に、シャリファは日本に行くことになる。漫画やアニメでしか知らなかったことを、シャリファは体験する。これはその日常の話。

\* 作者は外国人です。日本人ではありません。おかしい言葉や文があるかもしれません。

## 登場人物設定

Syarifah Pridita Hasanah (シャリフ  
ア プリディタ ハサナフ)

性別 : 女

年齢 : 8 (2年生)

呼び名 : シャリファ (日本の学校の友達)

リファ (インドネシアの学校の友達)

イファ (家族)

インドネシア人。お父さんの都合でインドネシアから来た。広島県の東広島市に住んでいる。

イスラム教で、ジルバブを着けている。見た目はおとなしそうだが、実際は男の子っぽい。屋根や木の上で読書するのが一番好き。だから、木を上る時に邪魔になるスカートをはくのが嫌い。

Muhammad Rifqi Praditya (ムハンマド  
リフキ プラディチャ)

性別 : 男

年齢 : 4

呼び名 : リフキ (友達)

イキ (家族)

シャリファの弟。シャリファと違い、ひかえめな子で少し泣き虫。しかし、泣くのは笑われただけ。どんな怪我をしても絶対に泣かない。

前髪が長いときやジルバブを着ると女の子っぽくなる。

Hendar Supriyati (ヘンダル スピリヤティ)

性別 : 女

年齢 : 34

シャリファとリフキのお母さん。シャリファと同じく、ジルバブを着けている。

素晴らしいお母さん。（作者の考え。小説を読んでどう思うかはそれぞれです。）

Y u d i A d i t y a w a r m a n （ユディ アディチャワルマン）

性別 : 男

年齢 : 35

シャリファとリフキのお父さん。とっても5x優しいひと。今まで誰も怒っているところを見た人はいない。

機会の扱いがかなり得意。（遊戯王5D'sの遊星みたい）捨てられたコンピューターやパソコンを拾っては直して、家においている。そのため家と大学の部屋にはたくさんのコンピューターとパソコンがある。

## 登場人物設定（後書き）

この小説は私の経験を元に作られています。（大幅に変わる場面もありますけど）

私は2年前日本に行ったことがありました。（日本に行ったのは5年前。）日本語を忘れないように、小説を書いています。よければ読んでみてください。

\*私はまだ学生です。その上気分しだいで小説を書いています。なので更新は遅いかもかもしれません。

## ブローグ

『ついに日本に行くんだ・・・』

『うん。お父さんに会えるのは嬉しいけど、ニア姉たちとしばらく会えなくなるのは寂しいなあ。』

『ぼく、おじさんと遊べないの・・・？』

イキはお母さんの服をつかみながら、おじさんに言った。

『帰ったらたくさん遊んであげよう。お父さんに俺たちは元気だつて言ってくれよ？』

『イファ、ちゃんと電話してよ！』

『うん、電話かけるね！』

おじさん、おばさん、いとこ、おじいちゃん、おばあちゃん。ほとんどの家族が来てくれた。

『イファ、イキ、行くよ！』

私とイキはお母さんと手をつないで中に入った。外ではみんな手を振ってる。もちろん、私とイキも手を振った。

『みんな、またね！』

## ブローグ（後書き）

どうでしたか？よければ感想やアドバイスをください。

日本だ!! (前書き)

続きます。



日本だ！！

飛行機の中。

私は今、日本にむかつてるんだ！

日本だ！！

私のお父さんは、1年前から日本に留学。1年後、3年生になった私と幼稚園に入ったばかりの弟とお母さんの三人でお父さんと一緒に住むために日本に来た。

日本ってどんな国なのかなあ。食べ物はおいしいかな？景色は？学校は？とにかく私はこれから何があるのか楽しみで仕方がなかった。その上飛行機には初めて乗ったから、私と弟のリフキは大騒ぎだ。

『うわ、イキ、見てみて！山があるよ！もうすぐ降りるんだ！』

『うん、すごいね！』

しばらくして、私たちはシートベルトを付け、飛行機は着陸した。

空港でも私達は大騒ぎだった。

『ねえ、あれって日本語なのかな?』

『そうかも!』

『あ!あれおしそう!』

『僕はこっちがいい。』

『イファ、イキ、ほら。』

振り向くと、そこにはお父さんがいた。

『お父さん!』

私とイキはすぐにお父さんに抱きついた。お父さんに会うのは1年ぶりだ。1年間、何も連絡してなかったわけじゃない。二日に一度、お父さんとチャットか電話をしていた。でもやっぱりこんな風に顔を見て話して、抱き合ったりできる方がずっといい。

『あのね、私クラスで2位になったんだよ!1年のときは10位以内ですら入れなかったのに!』

『すごいなあ。』

記念に私たち4人は通りすがりの人に写真を撮ってもらった。

\*\*\*

それから私たちはバスに乗って遊園地に行った。

外と違い、バスの中は涼しかった。へえ、エアコンがついてるんだ・  
・なんで年中夏のインドネシアのバスにはエアコンがついてない  
んだろう？乗ってる人たちも静かだなあ。インドネシアじゃおしゃ  
べりしてる人たちとか、食べ物や飲み物を売ってる人たちでにぎや  
かなのに。

渋滞はまったくない。止まるのは赤信号のときだけ。道路もきれい  
だなあ。見ていて気持ち良い。インドネシアじゃ渋滞にイラついて  
クラクションを鳴らす音や、乗り物の出すけむり、道端のゴミとか  
でいっぱいだもん。いつも車やバスに乗る時は寝てるけど、今日は  
違う。こんな綺麗な景色を見逃すなんてもったいない！

どれくらい時間がかかったのだろう。いつの間にかもう遊園地につ  
いてる。

それから、色んなことをした。ジェットコースターに乗って泣いた  
り、初めて見る自動販売機の使い方をお父さんに教えてもらったり。  
昼ご飯を食べたあと、お化け屋敷にも行った。

・・・感想。インドネシアの遊園地とかなり違う。とにかく怖かつ  
た！人形がいきなり動いたり、お化け人形の隣を通ったり、自分が  
映らない鏡を見ていきなりゾンビがふつてきたり。驚いたお母さん  
は、私のジルバブを引っぱった。手に持っていたオレンジジュース  
は、私のジルバブを濡らせた。イキはいいよねえ・・・お父さんに  
抱っこされてたもん。怖くなったら目を閉じるだけ。

外に出た時は、もう4時だった。早いなあ。さつき空港に着いたと  
きは朝6時じゃなかったっけ？駅に向かうまえに、私たちは遊園地

をバックに写真を撮った。

その後はあまり覚えてない。新幹線の中で眠っていた時いきなり起こされて、走って！と言われたような気がする。とにかく眠くて、お母さんと手をつないで半分寝ながら走った。

気がつけばタクシーの中。外は真っ暗。もう夜だ。だんだん家が見えてきて、私たちはそこで降りた。

まだ閉じていた目を必死にあけて、私はこれから住む家を見た。四角い形で、二階建てで、ドアは引き戸で・・・それだけを確かめ、用意されていた布団の中に私はすぐにまた眠ってしまった。

## 日本だ！！（後書き）

走って！と言われたのは乗り換えの時です。その時の私は、何も知りませんでした。

今思い出すと、「私のバカ！新幹線に乗ったのはあの時だけなのに、なんで寝ちやうのさ！！」と叫んでいます。

今9時半。結構眠くなりました・・・でもアイデアや気分がある今書かないと、いつ続くのか分かりません。

月曜日から期末試験が始まります。次の投稿は18日になるかもしれません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0091u/>

---

日常

2011年10月8日17時45分発行